

会報

No. 46

会長就任にあたり

渡辺 幸男（慶應義塾大学）

日本中小企業学会会長の職務を今年の11月から3年間引き受けることになりました。私にとって中小企業学会は、研究者としての学会活動の中心的存在であり、その学会の会長職を引き受けることができたことは、大変光栄に感じるとともに、責任の重さを感じています。

慶應義塾大学での第1回総会の開催を手伝い、故伊東岱吉第2代会長と故佐藤芳雄事務局長の下で事務局の仕事を行い、故佐藤芳雄第6代会長の下では事務局長を務め、その後は常任理事として東部部会の運営を担当してきました。このような形で発足当初から積極的にかかわってきた学会の運営を中心に担う立場になり、今後の学会の発展の方向について、改めて考えています。

基本的には、港徹雄前会長が積極的に展開した、国際交流等により中小企業学会が国内外の双方に積極的に情報発信すること、また、同時に部会活動や年報の査読制等を通じて会員相互の研究の充実をより一層はかること、これらのことを引き継いでいきます。そのために、常任理事のうちの何人かの方々には、学会の常任理事として担当を持っていただくことを、より明確にしました。これは各副会長や常任理事を中核として、積極的な学会内外での活動が行われることを願っていることによります。



同時に、学会活動は、各会員の積極的な参加、発言によって初めて意味のあるものになります。役員のみではなく、500名余の会員の皆さまの主体的な活動参加を通し、現代経済の主要主体である中小企業についての研究を、経済学・経営学等の多面的な視点から、高めていければと考えます。中小企業の多様かつ多面的な実態をふまえ、政策等に対する実質的な意味のある情報発信する研究者集団として、より一層の発展に、共に努めたいと思います。